

第 1 回兵庫県クラブチャンピオンシップ(U-14) 決勝戦評

この日は、決勝前に準決勝も行っており両チームのコンディションが試合にどう影響するのかがポイントであった。

立ち上がり早々にサルパが決定機を迎えるがゴールを決められず。その後すぐに同じように決定機を作り出したが 2 度も決められず、その後の CK でもシュートがポストに当たるなど 3 度も得点チャンスを逃してしまう。

その後もサルパは相手陣内に押し込んでサイドから早めにクロスを上げ DF ラインと GK の間のスペースを狙ったり、サイドをえぐり決定機を作ろうとしていたが中々決定機は作れず。

伊丹 FC は、前半折り返しの飲水タイム頃から徐々にサルパの攻撃に対応するようになる。慌てずドリブルで相手をいなしながら攻撃し、全体が前がかりになったところでサルパサイドバックの背後へ FW が動き出しカウンターを狙うなど、徐々に伊丹 FC が攻め込みチャンスが作れるようになったが、お互い決定的な場面はなく前半終了。

後半立ち上がり 4 分に、サルパが左サイドからのクロスの中に入れ交錯しこぼれたボールを決め均衡を破る先制点をあげた。さらにその直後勢いがでたサルパが CK からこぼれを押し込み 2 - 0 に。

伊丹 FC は 2 点リードされたところから徐々に運動量が落ち始めた。

逆にサルパは余裕が出始め、サイドからの攻撃が主であったが CB からの縦パスから前を向けるようになりシンプルに攻撃リズムがでてきたことで徐々に中を崩し攻撃できるようになり勢いを増して行き、後半 20 分にサルパが試合を決定づける 3 点目を奪う。

その後もサルパが追加点を奪い、5 - 0 となり試合終了。

サルパはサイド攻撃を有効にするため準決勝と選手入れ替えコンディションがいい選手で戦えたこと、伊丹 FC は 2 試合目で運動量が落ちたことが勝敗を分けた大きな要因の一つであった。